



FD/SD活動の推進 — 令和元年度 英語講義FDワークショップ開催 —

テーマ ● 英語講義の運営方法と課題について
 日時 ● 令和元年11月25日(月) 15:00~16:30
 場所 ● SR307教室
 参加者 ● 教職員 8名



内容 ● 英語講義FDワークショップは、外国語での教授法等に関するFDとして実施しており、今年度は、「英語講義の運営方法と課題について」をテーマに、外国語学部の小柴健太准教授と生命科学部の染谷梓准教授の2名より事例紹介をしていただきました。

小柴先生の授業では、予めmoodle上で公開した予習内容を授業で共有した後、学生同士でディスカッションが行われます。日本語の漫画の一部シーンを英訳する課題で、登場人物のジェンダーについて、英語でどのように訳すべきかをディスカッションしつつ、ジェンダーについても考える授業となりました。また、事前課題をしっかりと取り組んでもらうために、課題への取組を成績評価の4割相当に設定するという工夫がされています。

染谷先生からは、9年間担当された動物生命医科学科必修科目の授業運営の工夫等が紹介されました。学生が学科の内容を英語で理解することを目的とし、同じ内容で難易度を変える、翻訳サイトを使って和訳できないように内容を解釈するための問題を設定する、教材に実験データを用いる、予習の自己評価と他学生の点検を取り入れた評価方法(ピアレビュー)の実施、学生同士の教え合いを促進するため教員が説明をしすぎない等、様々な試行錯誤を重ねてきたと説明がありました。事例紹介後、参加者同士で英語講義の運営と「学生の英語レベル差の対応」や「課題をやってこない学生の対応」等の課題について、活発な意見交換がなされました。

参加された教職員の声

- ・ 理系学部と英語学科の違いが見られたのが面白かった。
- ・ 英語で講義されている先生方の体験を踏まえてお話を伺って参考になった。
- ・ 学科内でも英語講義について話す機会がないので大変有意義だった。

書籍の紹介

はじめてのファシリテーション
 — 実践者が語る手法と事例

編集：鈴木康久、嘉村賢州、谷口知弘 出版社：昭和堂

本書は、これからファシリテーションを一から学び実践に役立てようとしている人向けに書かれた書籍です。執筆者は総勢37名であり、F工房スタッフである鈴木康久氏や本学の教員も携わっています。執筆者たちの活動の場は大学だけでなく、行政、企業、NPO、地域社会と様々であり、分野もまちづくりから教育、福祉、市民活動、ビジネス、アートと多岐に渡っています。

ファシリテーションの基礎から応用、その実践事例がまとめられていますので、ファシリテーションについて知りたい方、学びたい方は必見の書籍です。



第10期学生ファシリテータ研修合宿を行いました!



F工房では、学生ファシリテータ(以下、学ファシ)の育成を行っています。第10期学ファシを対象に、11月30日、12月1日の2日間、「学生ファシリテータ研修合宿」を行いました。この合宿は、学ファシ同士の関係性の構築や学ファシとして活動するにあたって必要なファシリテーションスキルとマインドの習得を目指すことを目的に、初回の研修として実施しました。合宿の内容は、次のページで紹介しています。

Contents

- p2 <F工房の活動>
第10期学生ファシリテータ研修合宿報告
- p3 <FD/SD活動の推進>
第2回全学FD/SD研修会の開催
- p4 <FD/SD活動の推進>
令和元年度
英語講義FDワークショップの開催
- <書籍の紹介>
はじめてのファシリテーション
— 実践者が語る手法と事例

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。
 CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

F工房の活動

— 第10期学生ファシリテータ研修合宿 —

本合宿では、①学ファシのことで困った時に頼れる人、相談できる人を1人以上見つける、②「ファシリテーションとは何か」が説明できる、の2点を到達目標とし、プログラムを作成しました。2日間のプログラムは以下のとおりです（★のプログラムは、継続学ファシのファシリテーションスキルや研修の企画実施力の向上を目的とし、継続学ファシが自ら企画・実施しました）。

1日目

セッション① ★アイスブレイク



緊張を解きほぐし、「お互いのことを知る」ことを目的としたアイスブレイクを行い、この後のワークもスムーズになりました。

セッション② ファシリテーションの基礎を学ぼう



「ファシリテーションを知る」、「学ファシの役割を理解する」ことを目的に、ブレインストーミングやKJ法などのポピュラーな議論の手法について、レクチャーを行いました。

セッション③ ★ナイトプログラム



夕食後、多くの学ファシと話すことを目的に、ワールドカフェを行った結果、学ファシ同士がお互いのことをさらに知る機会となりました。

2日目

セッション④ ★目覚ましワーク



目を覚ます、頭を切り替えることを目的に、パスデーライン（会話をせずに誕生日順に並ぶ）やスピードじゃんけん（じゃんけんをして3敗したらその場にしゃがみ、最後まで残った人が勝ち）等を行いました。

セッション⑤ ★価値観ワーク ~人生の中で最も大切なことは~



グループで、友人、家族、仕事、お金、余暇の中から大事なものを順位づけするワークを行い、お互いの価値観を擦り合わせる「対話」の重要性を学ぶことができました。

セッション⑥ 観察とフィードバックについて学ぼう



グループワークを支援する時に必要となる「観察とフィードバック」の力をつけるため、実際に観察役とフィードバック役を体験しました。

F工房スタッフからのメッセージ



F工房スタッフ
清水 菜未

学ファシは、合宿以外にもファシリテータに必要な研修に定期的に参加しており、ファシリテーションに対する理解を深めています。学ファシは授業だけでなく、学部オリエンテーションや課外活動団体の研修等でも支援を行っています。学ファシを活用されたい方、協働運営したい方は是非、F工房までお問い合わせください!!

FD/SD活動の推進

— 第2回 全学FD/SD研修会の開催 —

教養としてのデータサイエンス

講師：平井重行准教授（情報理工学部）

令和2年1月10日（金）、教育支援研究開発センター主催「第2回全学FD/SD研修会—教養としてのデータサイエンス—」を開催しました。近年、データサイエンスという言葉が注目されており、その知識や技能が社会人として必要とされるようになり、国の政策でも拠点大学を指定し、標準カリキュラムの開発を進めるほか、データサイエンスに関する学部の設置等の動きがあります。

今回は、データサイエンスが注目されている背景や経緯、データサイエンスについての基礎的な知識を深めることを目的に開催し、当日は学長をはじめとした教職員・学生21名が参加しました。

講演要旨

近年、データサイエンスが流行するようになった背景には、ビッグデータが関係している。2012年頃、Web サービス界隈でのデータ解析とその応用からビッグデータが話題となり、データ保存技術やデータ処理技術の進展やIoT（Internet of Things）関連技術の発展により、これまでデータ化できなかった実世界の様々なモノ・コトのデータ化が可能となった。その結果、各企業が業務効率化やよりよい経営判断、新規ビジネスを興す等の目的で「データの活用」に目を向けだし、今日のデータサイエンスの流行に繋がっている。このような背景から、社会ではデータサイエンティストが求められている。AIブームがデータサイエンスブームに拍車をかけているが、AIよりもBIに目を向けるべきである。BIとは、Business Intelligenceの略で、企業活動の一般的なデータ分析として行われることやその他業種毎の事業内容に基づくデータ分析のことであり、経営分析や財務分析、予算管理等が該当する。

データサイエンスの業務プロセスには、①目的の定義、②データ収集、③データチェック、④データ分析、⑤データ提示、⑥意思決定の6つのプロセスがあり、特に②と③に時間を要する。データサイエンスを扱うデータサイエンティストに必要な知識・スキルとして、統計学や線形代数、微分積分と



いった数学の基礎知識だけでなく、疑似相関に騙されないためのデータリテラシーやプログラミングやデータベースを扱うスキル、さらには分析対象の分野に関する知識等が求められる。データサイエンティストを養成するため、大学教育の中に組み込むには、データリテラシーとともに統計学を全学対象に学ぶ機会を設けた方が良いと考える。本学の職員もSDの一環として、統計学やデータリテラシーを身につけることに興味を持っていただきたい。

参加した教職員の声

- ・データリテラシーの重要性と授業での位置付けの再検討の必要性を改めて認識することができた。
- ・職員の立場としても、データサイエンスの活用が必要だと考えさせられた。
- ・質疑応答の部分で、自分の知らない学部のカリキュラムや特有な事象が分かり参考になった。